

第8回全国弓道指導者研修会



目的別研修（初心者・初心者指導、学校授業対応クラス）
講師の手ほどきで射技研修

第8回全国弓道指導者研修会（主催＝日本武道館、全日本弓道連盟、後援＝スポーツ庁）が2月14日～16日の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで、特別講師1名、主任講師1名、講師3名・助講師5名、参加者77名が集まって実施された。

本研修会は、日本全国で弓道を指導する中学、高等学校の教員、及び社会体育指導者を対象に、我国の伝統と文化に立脚した理論と実技の研修会を実施し、「弓道」の理解を深め、専門的な知識・技術・指導法の充実を図り、もって全国的な弓道指導者の養成と資質向上に資する目的で行われた。

■ 1日目（2月14日）



浅野有三副会長

開講式では、浅野^{ゆうぞう}有三全日本弓道連盟副会長が挨拶に立ち、「本研修会は指導者の育成と個人の技量向上を目指しています。指導者としていかにあるべきか、いかに指導をしていくかという視点に立ち、研修に臨んでいただきたいと思います。指導者として身につけるべき知識、技能、倫理感について、初心に帰って学びを深めてください。また、研修期間中は、お互いを尊重し、積極的に交流を図っていただきたいと思います。本研修会が有意義なものとなることを願います」と述べた。

続いて、吉川英夫日本武道館事務次長が挨拶に立ち、「武道界の最近の状況について、お伝えいたします。まず、中学校武道必修化の現状についてですが、本年度はスポーツ庁が外部指導者を活用した『複数種目実施のモデル実践校事業』を全国31都道府県・政令指定都市99校で実施し、弓道は13校でした。次年度も実施予定ですので、皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。



吉川英夫事務次長

次にスポーツ庁が中心となって進めている『武道ツーリズム』についてです。これは、①武道が日本発祥であることの国際的認知の向上、②武道を訪日客誘致の目玉とする、③体験を通じた武道ファン層の拡大、④日本の精神・文化の国内外への振興等を目的としています。政府は外国人旅行者数について2020年には4,000万人、2030年には6,000万人に増加させたいと考えています。

最後に日本武道館は現在改修工事を行っていますが、東京オリンピック・パラリンピック終了後、世界武道祭を実施いたします。皆様方にはぜひひ足をお運びいただきたいと思います」と述べた。

その後、桑田秀子主任講師が講師を代表して挨拶に立ち、「ここで学んだことを現場に還元していただきたいと思います。健康に留意し、実りある研修会となることを期待しています」と述べた。

開講式終了後、『中学校武道必修化指導書 DVD』の武道編を視聴。その後、^{こかともつぐ}五賀友継特別講師による講演『近代学校弓道史から学ぶ課題と今後の展望』が行われた。学校弓道の現状について確認した後、近代において、弓道の学校正課導入が柔・剣道よりもなぜ遅れたのか、正課導入までの経緯と導入後の普及を阻んだ要因は何か、正課外でどのように発展したのかについて説明された。また、近代学校体育における弓道の問題点として、①弓道界からの積極的な働きかけの必要性、②集団指導法の構築、③形の統一、④指導者の資格及び養成、⑤指導法の確立、⑥施設・用具の確保、⑦運動量の確保の7点を挙げ、「現代にも通じる課題であり、弓道が正課として実施されるためには、これらの問題点を解決することが求められる」と述べた。

次に、『弓具・射法八節解説』について、高橋文彦講師よりパワーポイントで要点を示しながら解説がなされた。高橋講師は、「射法八節を一連の流れとして正しく理解して頂きたい」と述べ、実施上の注意点を説明した。

続いて、10班に分かれてグループディスカッションが行われた。「中学校弓道指導における課題について」「働き方改革に伴う取り組みについて」「弓道を指導するにあたり、どのような指導者になりたいか」「学校(中・高・大)で弓道を習い、卒業後も継続してもらうためには」の4つのテーマについて、各班それぞれ検討・協議を行い、その後、代表者より協議した内容(現状・課題・対策等)を発表、最後にテーマ毎に講師から講評が述べられた。「どのような指導者になりたいか」について、川平俊博講師より「“教育=共育”。上からの指導ではなく、共に育っていくことが大切。様々な目指すべき指導者像があると思うが、生徒にどのようなことを伝えたいのかについて、常に心掛けて頂きたい」と講評が述べられた。

■ 2日目 (2月15日)

午前7時、受講生全員での準備運動後、射場設営、巻き藁の設置、的紙貼り等を分担して行った。朝食後、森茂行講師による『初心者に対する指導』

の講義が行われた。安全への配慮、健康の維持・管理、着装、施設の利用と管理、用具の準備・確認と維持管理、射法・射技・体配等について説明がなされた。「早い段階で弓を握らせ、近距離からの射させることにより、弓道の楽しさを味わわせることができる」と述べた。その後、桑田主任講師と岩本裕美助講師より、紐弓の作り方と使い方についての説明がなされた。

続いて、A・B班(初心者・初心者指導、学校授業対応)、C1班(初段～三段)、C2班(四段以上)の3班に分かれ、大道場と弓道場で目的別研修がそれぞれ行われた。A・B班は、安全管理についての説明、弓具の取り扱い方、射法八節の説明、巻き藁での射技研修が行われた。4人ずつのグループとなり、お互いにアドバイスをしながら実施された。午後も引き続き、目的別研修が行われた。A・B班は、素引きによる確認後、アーチェリーの、巻き藁での射技研修を行った。

夕食を兼ねた懇親会では、弓道に関する話題で盛り上がり、参加者同士の交流が深められた。

■ 3日目 (2月16日)

前日に引き続き、班毎に大道場と弓道場で早朝稽古、目的別研修が行われた。A・B班は、ゴム弓を使って八節を確認後、巻き藁とアーチェリーの向かい、射技研修を行った。また、岩本助講師から中学校での弓道授業について、森本浩之助講師から高校での弓道授業について、川平講師から高校部活動指導についてそれぞれ報告があり、受講生からは多くの質問が寄せられた。



その後、森講師、高橋講師、川平講師による特別演武『一つの射礼』が行われた。閉講式では、受講生を代表して、垣田英紀鳥取県米子高等学校教諭に修了証が授与され、桑田秀子主任講師より講師講評が行われ、全日程を終了した。